

# 平成28年度 学校関係者評価報告書

## 佐用町立上津中学校

### 1 中期的な学校運営の目標・方針

- 学校教育目標「自ら学ぶ生徒、こころ豊かな生徒、たくましく生きる生徒の育成」の具現化を図る。
- ①一人一人の生徒を大切に学習指導の実践
- ②心豊かな生徒の育成
- ③保護者・地域に信頼される安心・安全な学校づくり
- ④特色ある教育活動の充実

### 2 年度の重点目標

- (1)学習指導の工夫・改善に努め、個に応じた指導の充実
- (2)体験的な学習、問題(課題)解決的な学習を積極的に導入
- (3)基礎・基本の定着と身についた知識を表現し、活用できる力の育成
- (4)自他の生命、人権を大切に教育実践
- (5)明るく元気なあいさつができる生徒の育成
- (6)学校の教育活動全体を通じた道徳教育・人権教育の充実
- (7)生徒指導・交通安全指導の充実
- (8)美化活動の充実、教育環境の整備
- (9)学校からの情報発信、地域への協力、地域の教育力の導入
- (10)縦割り班を活用したひまわり栽培など受け継がれてきた体験活動の充実

### 4 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

- 学校評価の実施方法
- ・アンケート(生徒、保護者、職員)、生活実態調査、体育祭、オープンスクール(音楽発表会・PTA親子講演会)など行事の反省をもとに、評価委員会で達成状況、改善の方策を検討し、学校関係者評価委員会に提示する。
- ⇒ アンケートや生活実態調査による生徒や保護者の声を聴くことは大切であり、そこから、課題解決に向けての取組がよく分かる。このような方法で今後も継続してほしい。しかし、生徒と保護者へのアンケート内容がリンクしているのはよいが、逆に保護者にとって答えにくいものがあるので、工夫改善をお願いしたい。

### 5 総合的な学校関係者評価

- 学校が落ち着いており、生徒も穏やかで明るく元気に学校生活が送れていることが、行事等で学校を訪れる度に感じる。今後も、全学年1クラスではあるが、少人数の利点を活かし、地域に根差し地域を活性化させるような学校運営に期待する。
- 10月の鳥取県での地震発生時には、授業中にもかかわらず全校生徒・職員がすばやく身を守る行動がとれたことはすばらしい。防災教育のみならずさまざまな分野についての教育が、学校現場に求められているが、生徒や保護者、地域のそれぞれの実態に即した効果的な教育の実践を望む。
- スマホなどのトラブルやゲーム依存、いじめ問題など、ニュースで取り上げられる事例が後を絶たない。全職員の協働体制で未然防止や早期発見を切に願う。

### 3 学校自己評価結果 (A 優れている B 良い C おおむね良好 D 要改善)

分野	評価項目・取り組み内容	達成状況	学校の取り組み状況・改善の方策
学校運営	生徒の内面理解に基づく生徒指導の充実 仲間とともに助け合う学級づくりの展開 ・明るく元気なあいさつができる生徒の育成 ・楽しく、居場所のある学級 心に響く道徳教育・人権教育の充実	B	○職員会議や毎朝の職員打ち合わせでは、情報交換を密にし全職員が共通を深め指導の一貫性を図った。 ○家庭訪問や電話連絡、学級通信などで保護者の理解と連携の強化に努めた。 ○スクールカウンセラーとの連携による指導や、研修会による指導方法や技能の向上を図った。 ○生徒会活動を活発化させ、登校時のあいさつ運動や授業前後のあいさつの徹底を図った。 ○生活アンケートや学校評価アンケートの結果を踏まえ、個々の生徒の実態に応じた指導を継続する。 ○担任だけでなく副担任も道徳の研究授業を実施し、指導方法について研修を深めた。
教育課程	学習指導の工夫・改善に努め、個に応じた指導の充実 ・自ら学ぶ意欲の育成 ・わかる授業の創造 ・基礎・基本の定着と身についた知識を表現し、活用できる力の育成 一人一人を見つめ育てる特別支援教育の充実 ・一人一人の教育的ニーズの把握と適切な就学指導の推進 ・生徒指導・交通安全指導の充実 心身の調和のとれた発達を目指す体験活動の充実 ・ひまわり栽培、ボランティア活動の充実 ・美化活動の充実、教育環境の整備	A	○国語・数学・英語は、授業始めに基礎基本の確認ドリルを行い、継続的に定着を図っている。1・2年数学では、少人数授業の実施によるきめ細かな指導を徹底した。 ○特別支援教育委員会で、支援を要する生徒の実態把握や支援内容について協議し、職員組織としての支援体制の確立に努めた。 ○授業記録、職員会議等を通じて全職員が生徒の実態を共有できるようにした。特に、特別な支援を要する生徒については、日々の様子を随時確認し状況を把握した。 ○ものづくり体験やママプラザとの交流会、調理実習等の地域の支援を受けて活動を充実させた。 ○伝統として根付いた「ひまわり栽培」を通じ、地域に貢献できた。 ○縦割り班による清掃活動やボランティア活動を通じて、美化意識の向上が図れた。
課題教育	今日的課題に対応した教育の推進 ・日本の文化や伝統を大切に育てる態度の育成と多文化理解 ・福祉の心を育て、体験活動等を通しての実践的意欲や態度の育成 ・情報モラルの育成、ICT活用の推進 ・体験活動を重視した環境教育の推進 ・社会的自立に向けたキャリア教育の推進	B	○全学年剣道に取り組み、礼儀・作法の大切さや相手を尊重する心を指導の重点に置いている。 ○地域の伝統行事に積極的に参加させ、地域のよさや特性を改めて見つめる機会とした。 ○地域の福祉施設への訪問活動により、交流会や美化活動を充実させた。今後も継続したい。 ○インターネット・スマホの危険性について、生徒と保護者を対象に専門機関による講演会を本年度も実施した。 ○トライやる・ウィークの充実や、家庭科での外部講師による調理実習、さらに総合的な学習の時間でのひまわり栽培等、職業体験を増やしキャリア教育の推進を図った。

### 6 評価項目ごとの学校関係者評価

学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
○いじめのない温かい学級づくりに取り組んでおられることが、学校評価アンケートや生活アンケートから読み取れる。今後も全職員で取り組んでもらいたい。
○体育祭や音楽発表会など学校行事での生徒の様子から、生徒と職員が一体となって一生懸命頑張っていることがよく伝わっている。
○道徳の授業を全員で行っているのがよい。挙手も多く、多様な考え方を引き出す授業を切磋琢磨し、指導力の向上を目指してほしい。
○数学などの難しい文章題では、何も書いていない生徒が増えたのではないかと感じる。途中まででもよいので、考えを書かせ褒めてあげる指導も大切ではないかと感じる。
○ひまわりボランティアやママプラザ交流会など、全員の生徒がとてもよい表情で取り組んでいた。このような体験活動は非常に重要であり、地域にもよい刺激となっている。
○先生の授業の仕方や、日々の生徒との接し方で、生徒は大きく変わる。先生の自己評価が低いのでは、もっと高くてもよいのではないかと感じる。
○日々新鮮な気持ちで、さらに自信を持って指導してほしい。
○文化センターに習字や絵画などの作品が展示されている。非常に力作ぞろいである。今後も地域にどんどんPRをし、上津中生徒を知ってもらおうとよい。
○平松武者踊りや地域の秋祭りなどに、地元の中生がよく参加できている。
○マラソン大会も非常に充実していたが、5か所に増やした福祉施設への訪問で、清掃活動と共に交流活動にも取り組んでいることがすばらしい。今後も、ぜひ継続し、内容も高まることを期待する。
○トライやるウィークによる職業体験やいずみ会などの地域に根差したグループ等の協力により、地域で生徒を育てることは非常に重要である。生徒数が減少し高齢化が益々進む中ではあるが、さらに地域とのつながりを深めてほしい。